

長野県千曲市

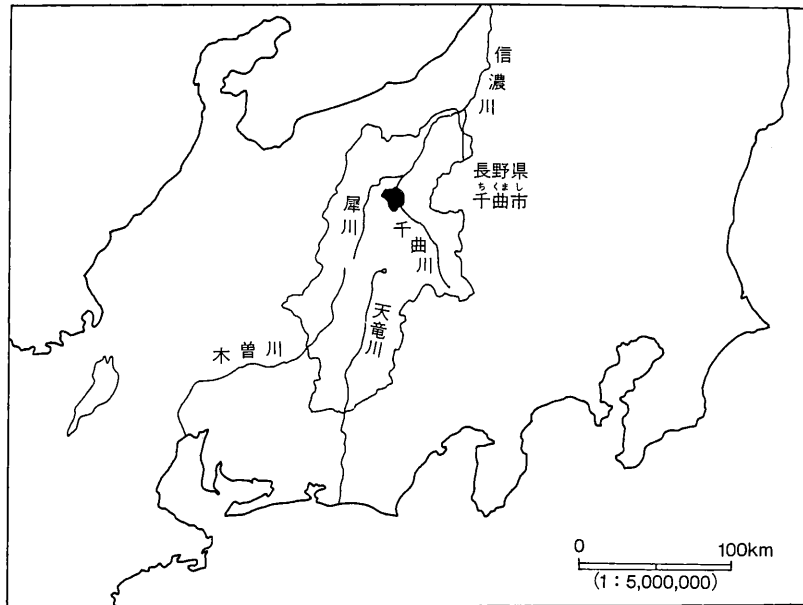
屋代遺跡群

大境遺跡 9

— オリオン機械(株)工場建設に伴う発掘調査報告書 —

2007

千曲市教育委員会



千曲市の位置

例 言 目 次

- 1 本書は、オリオン機械（株）の委託を受け、平成18年度に実施した、工場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 本書の編集は、小野紀男が行った。
- 3 調査は、千曲市教育委員会文化課が主体となり、文化財係が担当した。
千曲市教育委員会事務局
教育長 安西嗣宜
教育部長 塚田保隆
文化課長 金井幸一
文化財係長 矢島宏雄
文化財係 小野紀男 寺島孝典
- 4 本文中の遺構及び遺物の実測図の縮尺は原則的に、下記のとおりである。
遺構・土層断面図 1：40
土器実測図 1：4
- 5 本書中の図版の座標値及び方位は、平面直角座標系第Ⅷ系で示している。
- 6 調査に伴う出土遺物、実測図、写真等すべての資料は、千曲市教育委員会にて保管している。なお、出土遺物には調査記号を付し、保管している。

例言・目次

| | |
|-----------|---|
| 第1章 調査の概要 | 1 |
| 第2章 遺跡の環境 | 2 |
| 第3章 遺構と遺物 | 3 |
| 第1節 調査の成果 | 3 |
| 第2節 遺構と遺物 | 4 |
| 第4章 まとめ | 6 |
| 写真図版 | |
| 報告書抄録 | |

第1章 調査の概要

平成18年7月、オリオン機械(株)より工場の建設を計画している旨、連絡があった。

当該地は屋代遺跡群大境遺跡として周知されている埋蔵文化財包蔵地であり、昭和62年度に実施した調査により、現地表下約2mで埋蔵文化財が確認されている。

平成18年7月20日、事業者と遺跡の保護について協議を実施した。その結果、当該地からは平安時代の水田跡の検出が想定されるものの、以前に建設会社の資材置場として使用されていた場所であるため、遺跡がかなり破壊されていることが予想された。このため、水田跡の畦畔が想定される地点2箇所の発掘調査を実施して記録保存を図ることとし、発掘調査は平成18年11月に実施することとなった。平成18年8月25日、オリオン機械(株)より文化財保護法第93条に基づく届出があり、発掘調査が必要な旨、報告を行った。

平成18年11月13日、オリオン機械株式会社 代表取締役 太田哲郎と千曲市長の間に埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結し、11月14日より発掘調査を開始し、11月30日、現場における作業を終了した。

| | |
|----------|---|
| 1 調査遺跡名 | やしらいせきぐん おおざかいせき 屋代遺跡群 大境遺跡 (千曲市遺跡台帳 No. 31-13 調査記号 OZ9) |
| 2 所在地 | 千曲市大字屋代字大境1291番地 |
| 3 土地所有者 | オリオン機械株式会社 |
| 4 調査原因 | オリオン機械(株)工場建設に伴う当該遺跡の記録保存 |
| 5 事業委託者 | オリオン機械株式会社 代表取締役 太田哲郎 |
| 6 調査の内容 | 発掘調査 約100㎡ |
| 7 調査期間 | 発掘調査 平成18年11月14日～平成18年11月30日 整理調査 平成18年12月4日～平成19年3月30日 |
| 8 調査費用 | 1,300,000円 全額事業者負担 |
| 9 調査受託者 | 千曲市長 宮坂博敏 |
| 調査主体者 | 千曲市教育委員会 |
| 事務局 | 文化課文化財係 |
| 調査担当者 | 文化財係 小野紀男 |
| 調査参加者 | 高野貞子・竹之内常秋・中村文恵・間嶋今朝雄・宮澤満希男・米沢須美子 |
| 10 種別・時期 | 水田跡 平安時代 |
| 11 検出遺構 | 水田跡1面・土坑1基・溝跡1基 |
| 12 出土遺物 | 土器片 平安時代 コンテナ1箱 |

調査日誌

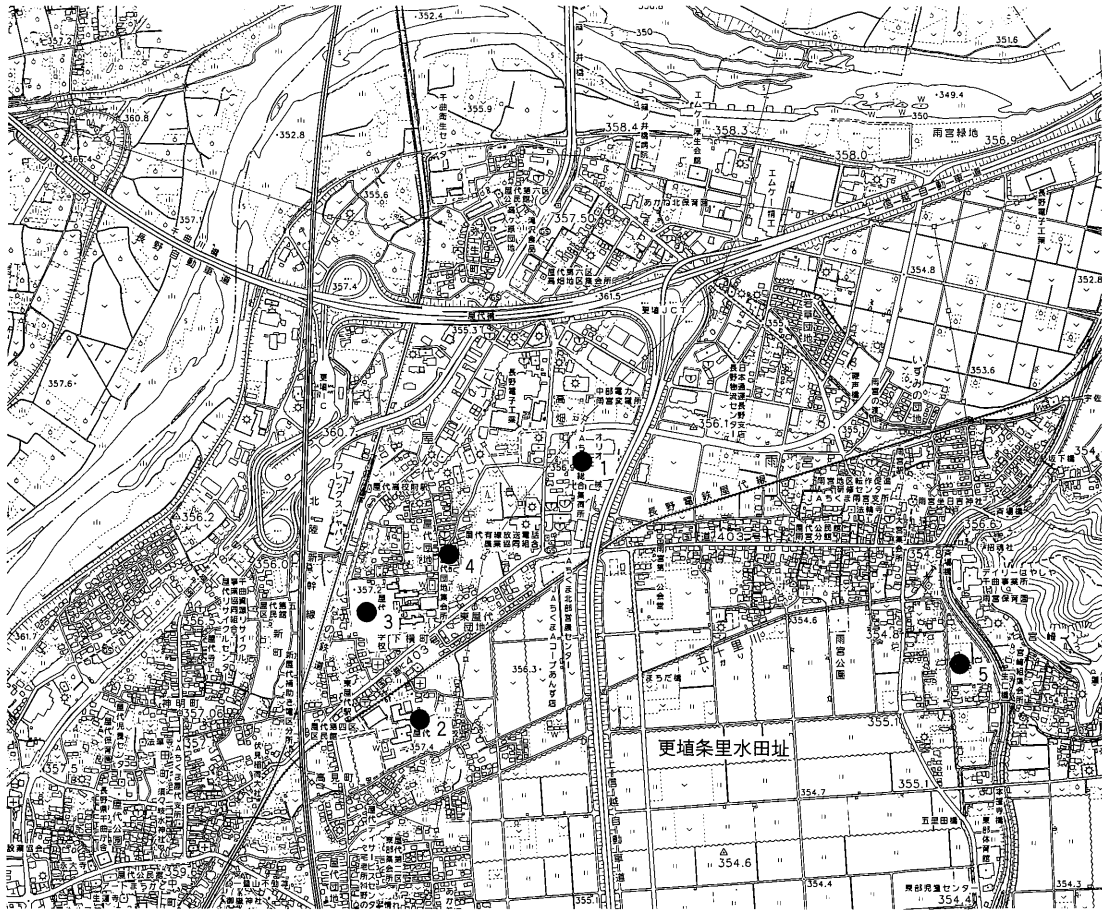
| | | | |
|--------------|---------------------------|--------|------------------|
| 平成18年 11月14日 | A地区表土掘削 大半が攪乱により調査不能 | 11月20日 | B地区より畦畔検出 |
| 11月15日 | A地区調査終了 | 11月24日 | 土坑・溝検出 |
| 11月17日 | A地区埋戻し、B地区表土掘削 基準点測量実施 | 11月27日 | 全体写真撮影し、作業員本日で終了 |
| | | 11月29日 | B地区埋戻し |
| | | 11月30日 | 機材撤収し、現場作業終了 |

第2章 遺跡の環境

大境遺跡は海拔357m付近、長野県千曲市大字屋代字大境地籍、北緯36度33分6秒、東経138度8分8秒付近に位置し、千曲川の氾濫によって形成された自然堤防上に展開する屋代遺跡群として把握されている。

屋代遺跡群は、東西約3km、南北約1kmを測る千曲市内屈指の縄文時代から中・近世に至る大遺跡群である。遺跡群では、上信越自動車道建設に伴う発掘調査が長野県埋蔵文化財センターにより実施され、地表下約4mから縄文時代中期集落の検出や、国府木簡をはじめとする多量の木簡や祭祀遺物が出土し話題となった。また、この自然堤防と善光寺平南縁を画する山地との間に広がる広大な後背湿地帯は「屋代田んぼ」と呼ばれ、市内有数の稲作地帯となっていると共に、その地下には条里制の水田跡が埋没している。

調査地周辺では、昭和55、62、平成15年に調査を実施しており、現地地表下約2mで平安時代の水田跡が検出されている。しかしながら、当該地は以前、建設会社の資材置場として使用されていた土地であり、大規模な土取りが行われていたため、遺跡がかなり破壊されていることが予想された。このため、調査は水田跡の畦畔が想定される地点の2箇所にてトレンチを設定して実施した。



1 大境遺跡 2 大塚遺跡 3 馬口遺跡 4 北中原遺跡 5 生仁遺跡

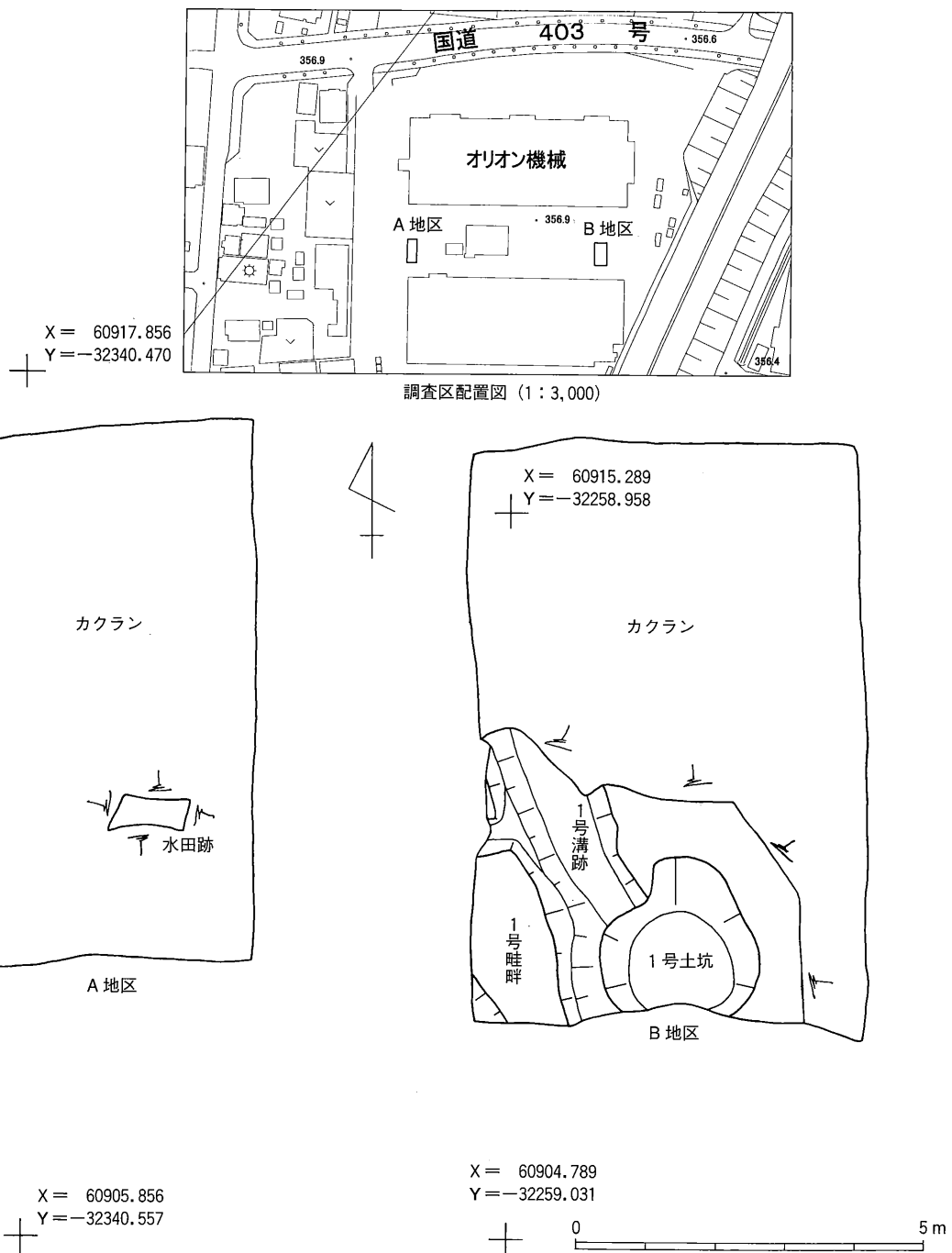
第1図 遺跡位置図 (1:20,000)

第3章 遺構と遺物

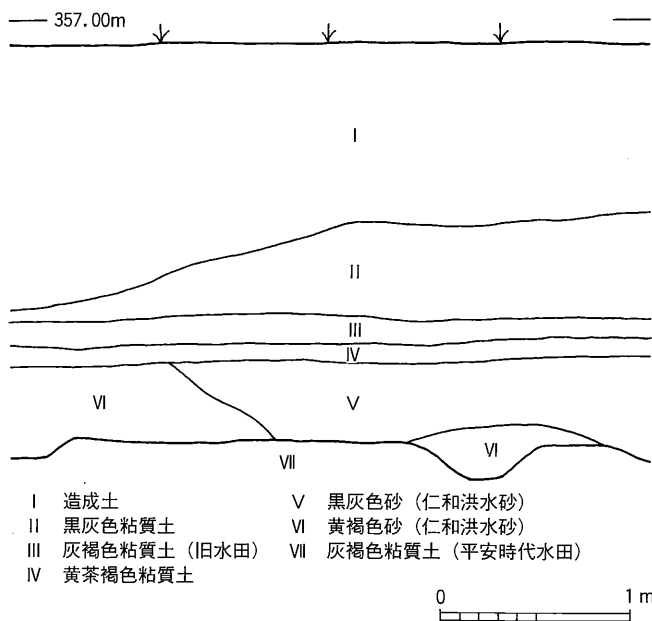
第1節 調査の成果

大境遺跡では、これまでに十数回の発掘調査を実施し、遺跡の北半部で弥生～平安時代の集落跡、南半部で平安時代の水田跡を検出している。調査地点は、水田跡の検出が予想される地点である。

発掘調査は、水田跡の畦畔が想定される地点に2箇所のトレンチを設定して実施した。A地区では、調査区内のほぼ全てが土取りにより攪乱されており、畦畔の検出はできなかったものの、わずかに残された部分から水田跡を確認した。B地区からは、ほぼ予想した位置から畦畔を検出した。



第2図 調査区全体図 (1 : 100)



第3図 基本層序 (1:40)

基本層序 (第3図、図版1)

調査地周辺では、これまでの調査により現地表下約2mで埋蔵文化財が確認されている。

I層は碎石混じりの造成土である。II層は黒灰褐色粘質土、III層は灰褐色の粘質土であり、造成前の水田面と考えられる。V、VI層は共に砂質土であり、「仁和の洪水砂」と考えられる。VII層は灰褐色粘質土であり、平安時代の水田面に対応する土層となる。

調査範囲が狭いこと及び攪乱があったため、明確な水田面は確認できなかったが、畦畔と考えられる遺構を検出しているため、水田跡が存在するものと考えて調査を実施した。現地表面から、畦畔の上面までは約2.1mを測ることができる。

第2節 遺構と遺物

1号畦畔 (第4・5図、図版1)

位置：B地区 規模：上端部幅1.2m 走向：N-11°-W

構造：B地区の南西隅より検出したもので、延長4mほどを確認して調査区外へと延びている。上端部幅約1.2mを測り、下端部幅は不明であるが、少なくとも1.6m以上を測ることができる。畦畔の検出位置はこれまでの発掘調査成果から導き出される条里畦畔の延長線上に一致している。また走向については若干触れが大きいものの、周辺の調査で検出される畦畔の走向とほぼ一致することから、坪を画する大畦畔であると考えられる。また、水口と考えられる施設を検出しており、1号溝跡への排水が行われていたものと考えられる。

遺物：畦畔の直上から土師器、須恵器の小破片がわずかに出土しているが、図化できるものはない。

1号溝跡 (第4・5図、図版1・2)

位置：B地区 規模：幅1.2m 走向：N-15°-W

構造：1号畦畔に沿って検出したものであり、断面形はU字形を呈している。延長3mほどを確認し、1号土坑に流れ込むような形をとっているが、溝跡と土坑の関係は明らかではない。土層断面から、1号土坑には「仁和の洪水砂」が堆積しているため、同時期の遺構である可能性が考えられる。

遺物：本調査で出土した遺物の大半が、1号溝跡からの出土である。図示した遺物はいずれも坏もしくは皿であるが、甕や壺の破片等も出土している。1～4は須恵器坏であり、底部には回転糸切痕を残している。1には火ダスキがあり、2の口縁部には強いロクロナデが認められる。5は内外面共黒色処理された土師器坏、6、7は内面黒色処理された土師器坏である。8は土師器皿である。器厚がやや厚く、体部下半をヘラケズリしている。

1号土坑（第2図、図版2）

位置：B地区 規模：直径2.3m

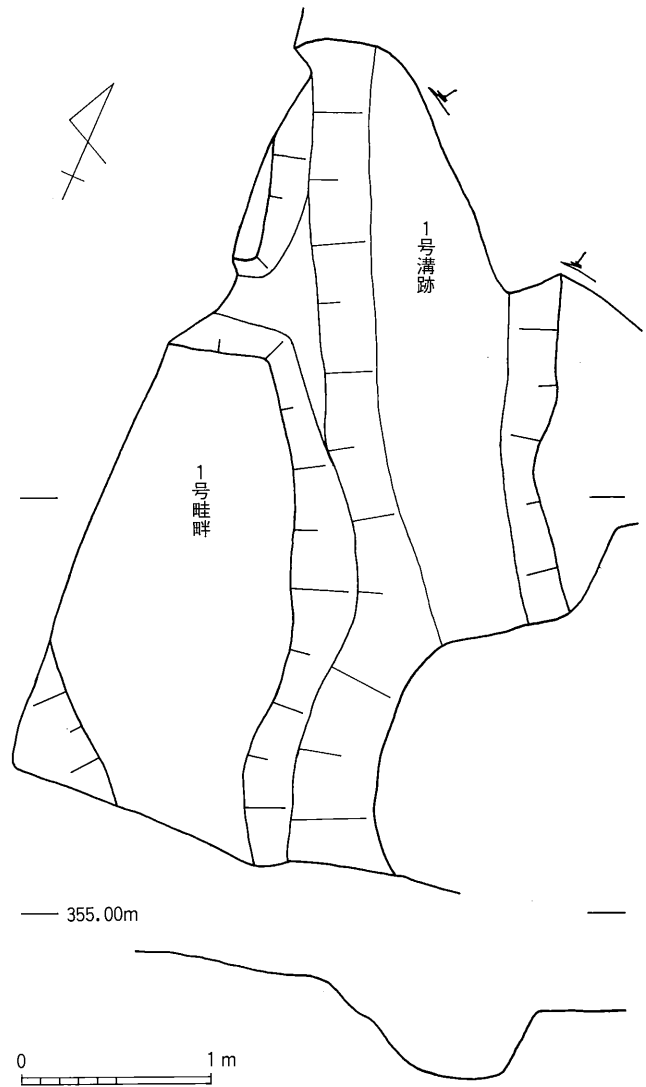
平面形：円形

構造：ほぼ円形の土坑であり、断面はすり鉢状に落ち込んでいる。崩落の危険があったため、検出面下約1.5mで掘り下げを断念した。

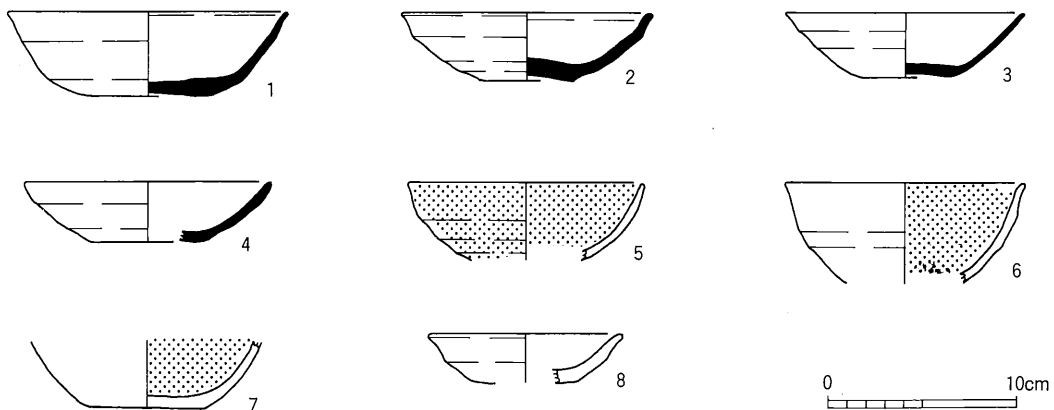
遺物：土師器、須恵器の小破片がわずかに出土しているだけで、図化できるものはない。

水田面（第2図）

A地区の調査は、トレンチ内のほぼ全てが土取により攪乱されていたため、明確な水田面を検出することはできなかった。攪乱をまぬがれたと考えられる1m×0.5mの範囲から、水田土壌を検出しただけである。この水田土壌はトレンチ内にブロック状に残されていたものであり、他からの混入であるとも考えたが、断面の観察を行った結果、攪乱ではないことが判明した。水田土壌の厚さは10cm前後を測ることができ、その下層には鉄分が沈殿した黄茶褐色の粘土層が確認できる。現地表面から水田土壌の上層までは、約2.2mを測る。また、この水田土壌の上層には、「仁和の洪水砂」と考えられる砂がわずかに付着しているため、平安時代の水田土壌と考えられる。出土遺物はない。



第4図 1号畦畔及び1号溝跡（1：40）



第5図 1号溝跡出土遺物（1：4）

第4章 まとめ

大境遺跡では平成17年度に続いて、2年連続の発掘調査となった。これまでの調査成果から、遺跡内では北半部で弥生～平安時代にかけての集落跡が検出され、南半部からは平安時代の水田跡が検出されることが想定されている。今回の調査地点は、水田跡の検出が想定される地点であり、攪乱が多く不明な部分もあったが、想定されたとおり、平安時代の水田跡を検出することができた。以下、今回の調査で注目された点にふれ、まとめとしたい。

更埴条里水田址の調査は、1961年に総合学術調査が実施されて以来、公共・民間の開発事業に伴って何回もの発掘調査が行われ、条里地割の状況や、坪内部の水田の区画が半折型を基本としていることなどが次第に明らかとなってきている。しかしながら、総合学術調査によって想定された条里地割と、近年の発掘調査によって導き出された成果では、坪を画する南北方向に走る畦畔の想定位置に約30mのズレがあることが指摘されている。このような中であって、今回の調査では総合学術調査の成果によって想定される畦畔の位置（A地区）及び、近年の発掘調査成果によって想定される畦畔の位置（B地区）の2ヶ所に調査区を設定して発掘調査を実施した。

A地区では残念ながら調査範囲のはほすべてが攪乱されていたため、畦畔を確認することはできなかったが、わずかに残された部分から水田土壌を検出したため、平安時代の水田跡が存在していたことは明らかとなった。

B地区からは、坪境を画すると考えられる畦畔を1条検出した。これは、これまでの発掘調査成果によって導き出される坪割の想定線上に一致することと、畦畔の規模から坪境の畦畔にあたるものと考えた。坪を画する畦畔の規模は下端幅が1m以上を測るものであることが明らかとなっており、今回検出した畦畔は下端幅が1.6m以上を測ることができるため、坪を画する畦畔として差し支えないものと考えられる。ただ、畦畔の検出位置が調査区の端にあっていたため、水田面と畦畔の関係を十分明らかにすることはできなかった。

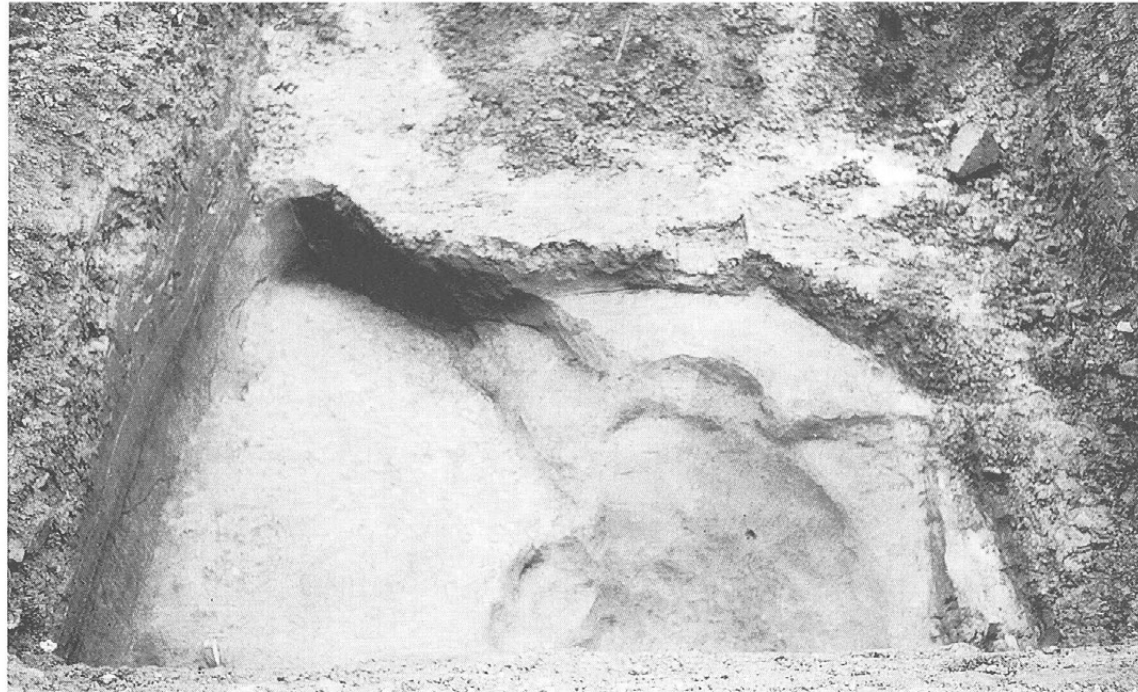
今回の調査によって、条里地割のズレを解決することはできなかったが、少なくとも条里地割が大境遺跡の周辺まで及んでいることが明らかとなった。調査地の北側に隣接するオリオン機械（株）工場の調査では、集落域と水田域の接点となる部分が確認されており、ここが条里的地割の北限にあたって来るものと考えられる。ただ、調査範囲が限られていたこと及び、攪乱による破壊があったため、坪内を画する畦畔の検出はなく、水田区画の形状等は確認することができなかった。

また、畦畔に沿って溝跡を検出している。畦畔からは水口と考えられる施設も検出しているため、この溝跡が排水路としての機能を果たしていた可能性が考えられる。更埴条里水田址内での水田への灌水方法は基本的に「畦越し配水」であるとの結果が得られており、用排水の機能を果たしていたと考えられる溝跡の検出は少ない。これまでに確認されている用排水路は基幹水路と考えられる大形の溝を除いて、坪を画する畦畔や、坪内部を半折する畦畔に付属して検出される例が多いため、今回検出した溝跡も用排水路として機能していたものと考えられる。

最後に今回の調査にあたり、関係の皆様のご協力に対し深く感謝申し上げます、まとめとします。



A 地区全景
(南側より)



B 地区全景
(南側より)



基本層序
(B 地区西壁)



1号土坑
(南側より)



調査風景
(A地区)

1号溝跡出土遺物



1



2

報告書抄録

| ふりがな | やしろいせきぐん おおざかいいせき きゅう | | | | | | | |
|------------------|---|-------|-----------------------------------|-------------|-------------|-----------------------------|------|------|
| 書名 | 屋代遺跡群 大境遺跡 9 | | | | | | | |
| 副書名 | オリオン機械(株)工場建設に伴う発掘調査報告書 | | | | | | | |
| 編著者名 | 小野紀男 | | | | | | | |
| 編集機関 | 千曲市教育委員会 文化課 文化財係 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒389-0892 長野県千曲市大字戸倉2388番地 TEL026-275-0004 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 2007年3月30日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 ° ' " | 東経 ° ' " | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| おおざかいいせき 大境遺跡 | ながのけんちくましおおざ 長野県千曲市大字 やしろ ほんち 屋代1291番地ほか | 20218 | 31-13 | 36 | 138 | 20061114 | 100㎡ | 工場建設 |
| | | | | 33 | 8 | ～ | | |
| | | | | 6 | 8 | 20061130 | | |
| 所収遺跡 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 | |
| 大境遺跡 | 水田跡 | 平安時代 | 水田面 1面 畦畔 1条 土坑 1基 溝跡 1基 | 土師器・須恵器 | | 条里地割に則った と考えられる畦畔 の検出 | | |

屋代遺跡群 大境遺跡 9

発行日 平成19年3月30日
 発行 千曲市教育委員会
 〒389-0892 長野県千曲市大字戸倉2388番地
 電話 (026) 275-0004
 印刷 信毎書籍印刷株式会社
 〒381-0037 長野県長野市西和田1-30-3
 電話 (026) 243-2105
